



送付枚数：4枚

(うち2枚：取材参考資料のため、市HP掲載省略)

多賀城産古代米を使った新しい味の発見！ ～みやぎ生協60店舗で販売 古代米弁当～ お披露目会開催

令和7年8月8日

宮城県多賀城市は、奈良時代にも食されていたとされる「古代米」を特産品として、地域の歴史と魅力を市内外に広く発信するまちづくりを進めています。

この度、みやぎ生協において、多賀城市の古代米プロモーションの取組に呼応して、多賀城産古代米を宮城県内に広く発信すべく、当該古代米を活用したお弁当が発売されることとなりました。このお弁当は、多賀城産の古代米を使用し、健康志向と地域の魅力を融合させた逸品です。宮城県内全店舗および県外の一部店舗で販売される予定で、古代米の美味しさと多賀城の魅力を広く発信する絶好の機会となります。

つきましては、お披露目会を開催しますので、ぜひ、貴社の紙面・番組でのご紹介を通じて、古代米と多賀城の魅力を多くの方に届けていただければ幸いです。

関係団体：みやぎ生活協同組合、多賀城味噌製造所みそらの郷

記

- 1 日時 令和7年8月20日（水）午後1時から午後1時40分まで
- 2 場所 多賀城市役所 西庁舎3階 第1委員会室
- 3 内容 (1) 事業者あいさつ
(2) 試食及び古代米お弁当の説明
(3) 参加者あいさつ
多賀城市長、多賀城市議会議長、多賀城市観光協会会長
多賀城味噌製造所みそらの郷代表者（古代米生産者）
- 4 古代米を活用したお弁当
 - ① <多賀城古代米使用>鶏唐揚げと野菜の黒酢餡弁当（8月21日販売開始）
 - ② 多賀城産古代米と宮城県産素材を使ったお弁当（仮称 今秋販売予定）



5 多賀城と古代米について

昨年、創建1300年を迎えた多賀城は奈良時代に陸奥国を統治する拠点として栄え、当時の行政組織である「国府」と兵士の駐屯・監督場所である「鎮守府」が置かれ、古代東北の政治・文化・軍事の中心としての役割を担いました。

現在、特別史跡に指定されている多賀城跡の発掘調査では、当時の米袋に付けていたと思われる「黒春米（こくしょうまい）」と書かれた木簡が出土しています。

多賀城が創建された奈良時代にも米が食されていた、そして多賀城には様々なところから米が運び込まれていたという歴史的背景を踏まえ、現在では稲の原種に近い「古代米」が市内で生産され、多賀城市を代表する特産品となっています。

6 古代米とは

学術的な古代米の定義はありませんが、日本では古代の遺跡から米が出土しており、米を作っていたことがわかっています。

この米の特徴は

- ① 米粒の大きさは現代のものと同様
- ② 稲穂からひげ（のぎ）が出ている品種がある
- ③ 稲の粒の付き方はやや粗かったのではないかと

といった論文もあります。

当時の米の色は分かりませんが、一般には色のついた古代米が栽培の過程で白色化していったと言われています。

また、昔は玄米で食べるのが一般的で、現代の精米した白米を食べる習慣は江戸時代の中頃と言われています。

この地で育まれた古代米を、市民一人ひとりや多賀城を訪れた多くの方にお楽しみいただくことで、シビックプライドの醸成や市の魅力発信にアプローチしていけるものと考えています。

《問い合わせ》

企画経営部市民文化創造課交流観光係

022-368-2085

総務部地域コミュニティ課広報広聴係

☎022-368-2092